

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XIII

平成11年3月

熊取町教育委員会

は し が き

文化財保護法が昭和25年に制定されて半世紀が経ちますが、今では誰もが文化施設を訪れ埋蔵文化財に関する知識を深めることができるようになりました。そして毎日のように全国各地の発掘調査が報道され、考古学上の常識でさえも新鮮な驚きと興味をかき立てるようなより正確な真実へと着実に更新されており、今後私達はますます歴史に親しめる機会に恵まれるものと思います。

近年私達の周辺は住宅開発や道路の整備が着々と進んで景観が大きく様変わりしました。市民生活はとても便利で豊かになりましたが、そんな私達の繁栄とひきかえに貴重な遺跡が失われていくことは案外私達の意識には薄いところと思います。開発に伴って実施する埋蔵文化財発掘調査は、日下のところ調査によって現れた遺跡を図と写真に記録するという必要最低限度の保存措置を実施する緊急的なものに止まっており、多くの場合調査後に遺跡は工事で壊れてしまいます。

開発を実施される施主の方々におかれましては、時間的・経済的に余裕がないとは存じますが、今後も埋蔵文化財発掘調査により一層の御協力・御支援をいただけるようお願いする次第であります。

私達が何気なく暮らす地域でも、発掘調査することによって思いがけない過去の文化に遭遇できることがあります。地域には今に伝わらない歴史的な断絶や意外性を秘めていることが多く、発掘調査の重要性を認識せざるを得ません。過去の人々の残した埋蔵文化財は、私達が祖先を敬虔に供養するのと同じように大切に扱うべきもので、この現代における私達現代人の代償とするにはあまりにも貴いものであります。

本書は平成10年度に国庫・府費補助事業として実施した調査を概要報告書にまとめたもので、補助金を受けた場合年度末に必ず提出する報告書として作成しています。調査ではなかなか日立った成果は得られないものですが、このような地道な調査を掲載した報告を積み重ねることによって地域史の研究などにも必ず貢献できると確信しております。

最後になりましたが、本年現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成11年3月

熊取町教育委員会

教育長 甲田 太三郎

例 言

1. 本書は、平成11年度に国庫補助金・府費を受けて、熊取町教育委員会社会教育部文化課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会社会教育部文化課文化財係職員前川 淳を担当者として、平成10年4月1日に着手し、平成11年3月31日をもって終了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成10年4月1日から平成10年12月29日までの発掘調査成果及び、平成9年度事業で昨年報告できなかった平成9年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果を掲載することとした。
4. 本書における図面の標高は、T、P、(東京湾平均潮位)を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版(小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版)を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。
薄月利恵子、尾上智史、小野美雪、石松 直、関井澄子、山本恵子、伊庭 勉、宇沢克之、
太田敏治、岡本利市、辻野 勝
7. 本書の執筆は前川淳が行った。

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 地理的環境と周知の遺跡	1
第1節 地理的環境	1
第2節 周知の遺跡	4
第3章 調査成果の概要	5
第1節 東円寺跡97-18区の調査	5
第2節 久保城跡98-2区の調査	7
第3節 城ノ下遺跡98-1区の調査	9
第4章 まとめ	11

第1章 はじめに

平成10年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出・通知件数は36件（平成10年12月29日現在）であり、昨年の同時期は37件であったことからほぼ横這い状況である。

本書では平成10年度国庫・府費補助事業として実施した、久保城跡1件、城ノ下遺跡1件、平成9年度事業で実施した東円寺跡1件の以上3件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成10年国庫・府費補助事業発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	申請者名	申請面積	調査年月日
東円寺跡97-18区	柑屋164-2	阪中治	205.32㎡	19980325
久保城跡98-2区	久保1567-1	山下徹	63.43㎡	19980521～0522
城ノ下遺跡98-1区	小谷204-1	本田武三郎	212.38㎡	19981102・1104

第2章 地理的環境と周知の遺跡



第1図 熊取町的位置

第1節 地理的環境

熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19km²を有する（第1図）。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。

地域別に見ると、町南部においては泉南地域の基本山地となる和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている（第2図）。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。

町域に水源を持つ河川は見出川・雨山川・住吉川の3水系が存在している。3河川とも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。いずれの河川も下流部が他市域を流れていることに加えて、本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることが出来る。

熊取町遺跡分布図



熊取町

20
75
1

第2節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

	周知の遺跡名	種 類	時 代	地 目	立 地	主 な 成 果 等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	江戸期から明治期頃の陶磁器等出土
3	来迎寺木堂	寺院	鎌倉	宅地	丘陵腹	15～16世紀の陶磁器や畑作遺構を検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	
6	東円寺跡	寺院跡	弥生～江戸	宅地	平地	縄文・奈良・鎌倉～室町・江戸の複合遺跡
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	
8	成合寺遺跡	草地	室町	畑地	丘陵腹	14世紀代の600基以上の土壇墓群等検出
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	土塁・堀切等の構築物を確認している
10	雨山城跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	月見ノ亭・馬場・千畳敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	須恵器等を採取するも現在消滅
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	享徳4年銘(1445)の五輪塔の地輪出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	的場・矢の倉等の字名、瓦器片多数出土
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	
18	祭祀御旅所跡	祭祀跡	室町	山林	丘陵	五門・相屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	毘沙門堂跡、現在消滅
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	大森神社神宮寺、現在消滅
22	羽羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	
23	幕ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	敷地を区画する溝や近世の陶磁器等
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初中心の遺物出土
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田	谷	
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	
32	千石堀城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	天正年間(1573～92)の雑賀衆徒の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	平安末～鎌倉初の遺構・遺物検出
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	13～14世紀の瓦器等出土
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
37	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初の遺物多数出土
38	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	13～14世紀の瓦器等出土
39	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	江戸期以降の陶磁器等多数出土
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	鎌倉時代以降の遺物の包含層

第3章 調査成果の概要

第1節 東門寺跡97-18区の調査

調査地 紺屋164-2

調査期間 平成10年3月25日

位置と環境

東門寺跡は熊取町の北西部の野田に所在し、現熊取町役場付近一帯にひろがる、町内最大の遺跡であり、地形的には、大井出川（住吉川）の右岸域に形成される低位段丘上に立地している。遺跡名における「東門寺」は、文献によると元来「東曜寺」と称していたらしい。また発掘調査で平安時代末期頃の軒丸・軒平瓦等が出土している。しかし今日まで、直接寺院にかかる遺構等は検出しておらず、伽藍配置等は全く不明である。また近年の成果により、縄文時代の石器や奈良時代、中世の掘立柱建物等が確認されるなど、複合遺跡として知られるようになってきている。

今回の調査地は東門寺跡の南西端に所在しており、小字名は向井前大生畝町となっている。

調査内容

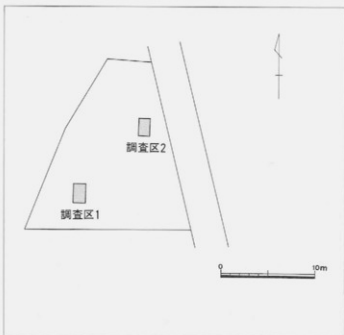
調査は個人住宅の新築工事に伴うものであり、調査地に2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により実施したが、包含層、遺構、遺物等は一切検出することは出来なかった。

小 結

調査地点には以前工場があったため、大きく攪乱土層が存在する。また調査地点の周囲は一段低くなっているが、これは以前に調査地点の方を盛土して高くしていたこともわかった。



第3図 調査地位置図(S=1/2,500)



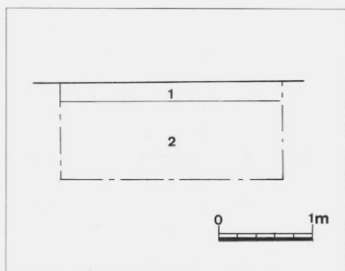
第4図 調査区位置図

土層略図説明

1. バラス
2. 宅地造成土



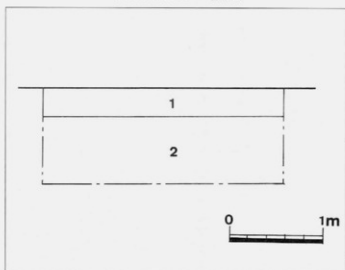
写真1 調査区1



第5図 調査区1 土層略図



写真2 調査区2



第6図 調査区2 土層略図

第2節 久保城跡98-2区の調査

調査地 久保1567-1

調査期間 平成10年5月21日～22日

位置と環境 久保城は小字名に城関連の名があるところから推定されているものであるが、目下城郭に係るような遺構は一切見つかっていない。また調査例の増加とともに古くは古墳時代や飛鳥時代頃からの土器が出土することもわかり、大方の調査地点で瓦器など中世頃の土器破片を含む包含層が分布することが判明してきており、役場の所在する野田東円寺跡周辺の状況と同じ様相をみせている。

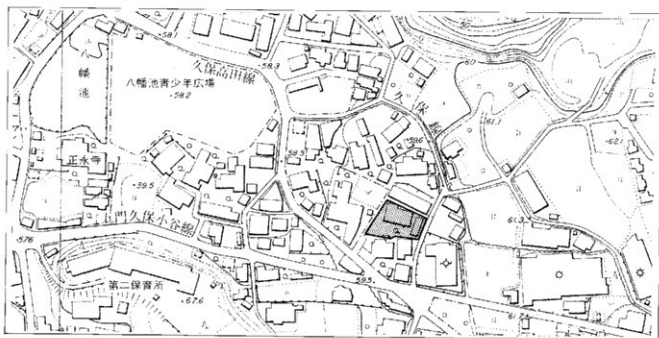
調査地点は見出川の中流左岸部段丘上に位置し、熊取町立クランド八幡池青少年広場の東側である。久保の集落の中にあつて、最近の発掘調査では飛鳥時代頃から中世にかけての土器が多く出土するので注意すべきところである。

調査内容

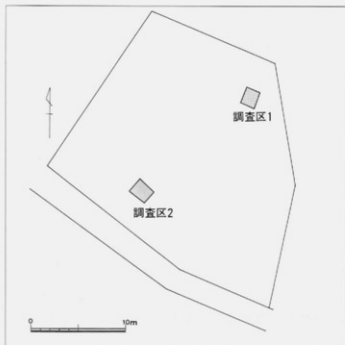
調査は2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削により実施した。両調査区とも現地表面下約40cm以下に中世頃の層が一層確認できたが、遺物はみられない。またこの層の下は礫と砂などの無遺物層があり、いわゆる地山面ととらえられるだろう。調査区の壁面を記録し、また調査区の位置を平板作業によって平面図に表し、調査の状況の記録として保存用に35mmのカラーリバーサルフィルムで、報告書用35mmの白黒フィルムでそれぞれ撮影した。

小 結

調査地点周辺は平坦な久保の集落がひろがり、中世頃を中心とする集落的な遺構が期待されたが、湧水や礫層、砂・シルトといった小河川状の旧地形が現れた。調査地点に限っては中世以前に集落が営まれるような安定した環境になかったものと考えられる。



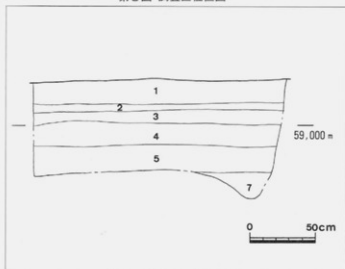
第7図 調査地点位置図(S=1/2,500)



第8図 調査区位置図

土 色

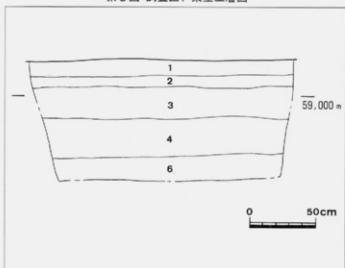
1. 宅地造成土
2. 10 YR 7/1 灰白色 砂質土 (近現代耕作土)
3. 7.5 YR 7/8 黄橙色 砂質土 (床土)
4. 7.5 YR 6/2 灰褐色 砂質土 (中世包含層)
5. 10 YR 3/1 黒褐色 粘質土
6. 10 YR 8/2 灰白色 粘質土 (湧水)
7. 10 YR 6/4 によい黄褐色 砂礫土 (湧水)



第9図 調査区1 東壁土層図



写真3図 調査区1



第10図 調査区2 西壁土層図



写真4図 調査区2

第3節 城ノ下遺跡98-1区の調査

調査地 小谷204-1

調査期間 平成10年11月2日、4日

位置と環境 城ノ下遺跡は見出川の右岸、前節の久保城跡よりも少し上流地点にあり、貝塚市との境界部水門の西側にあって中世の城郭跡と推定されている高蔵寺城のある丘陵の西裾部分にある。高蔵寺城は発掘調査の例がなく、城としての領域は不明のままであるが、丘陵頂部から西へ400～500m離れた本遺跡が城に関連しているかはこれからの調査にかかる。城ノ下遺跡での発掘調査例は数少なく、これまで中世から近世の土器の小破片が検出された程度である。高蔵寺城の丘陵裾部には既に多くの工場や民家が並び、かなり削平がすすんでいる様子である。

調査地点はまさに丘陵端が道路に接する場所で、古くから住宅地となって削平されている状況が観察できる。小字名は薬師下で、道路の向かいは割と広い範囲で小字名方願寺とある。

調査内容 工事は個人住宅の増築なので、ガレージのある比較的狭い範囲が対象である。図のように3ヵ所の調査区を設定して、人力掘削を実施した。住宅造成にかかわる整地土層の直下、現地表から約40cm下に中世の包含層が3層とさらに古代頃に遡ると思える茶褐色の土層（層厚最大40cm）が確認できるが、中世層での土器の分布密度はさほど高くはない。また古代の遺物は検出しなかった。

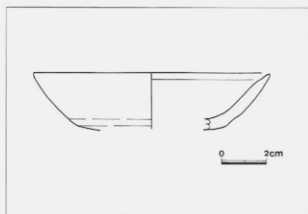
小 結 基礎の掘削が浅いこともあり、中世包含層以下は埋没して保存されることになった。いままで城ノ下遺跡では目立った埋蔵文化財が確認できなかったが、今回の調査で城ノ下遺跡もまた久保城跡やひいては野田の東門寺跡と同様、奈良時代以前（古墳時代頃）からの土器を包含する層や瓦器を中心とする中世包含層が分布していることが確認できた意義は大きい。



第11図 調査地点位置図(S=1/2,500)



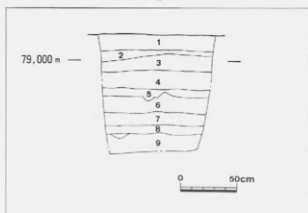
第12図 調査区位置図



第13図 遺物実測図



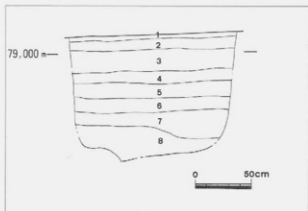
写真5 遺物



第14図 調査区1 南壁土層図



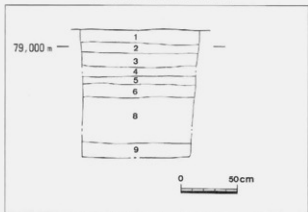
写真6 調査区1



第15図 調査区2 南壁土層図



写真7 調査区2



第16図 調査区3 南壁土層図



写真8 調査区3

土色

- | | | |
|----------|----------|-------------|
| 1. 2.5 Y | 5/3 黄褐色 | 宅地造成土 |
| 2. 10 YR | 5/2 灰黄褐色 | 近现代耕作土 |
| 3. N | 5/ 灰色 | 近现代耕作土 |
| 4. 10 YR | 6/1 褐灰色 | 砂質土 (中世包含層) |
| 5. 10 YR | 7/6 明黄褐色 | 砂質土 (床土) |

- | | | |
|-----------|-----------|-------------|
| 6. 7.5 YR | 6/1 褐灰色 | 砂質土 (中世包含層) |
| 7. 10 YR | 7/8 黄褐色 | 粘質土 (床土?) |
| 8. 7.5 YR | 5/2 灰褐色 | 砂質土 (古代包含層) |
| 9. 10 YR | 7/4 濃い黄褐色 | 粘質土 |

第4章 ま と め

以上、東田寺跡、久保城跡、城ノ下遺跡の3件の国庫・府費補助事業に伴う発掘調査成果を述べてきた。

今回、東田寺跡と久保城跡に関しては特に目立った知見は得られなかった。城ノ下遺跡に関しては中世の城郭につながるものはなかったが、城ノ下遺跡のある久保方面における最近の国庫事業以外の調査例から新しく判ってきた状況と同じように、古墳時代頃から開かれ、中世には分厚い包含層が営まれるなど、東田寺があったとされる野田周辺とはほぼ同様な状況にあったものと考えられる。但し城ノ下遺跡をはじめとする久保周辺は熊取町役場のある野田周辺と異なって、近年の乱開発を免れ、その地中には包含層が比較的良好に残存していることもわかってきた。野田では発掘調査体制が整う以前の昭和期において地山面まで削りとられるような開発が多かったため、良好な調査結果を得ることは少なくなったが、久保をはじめとする熊取周辺部では熊取町の歴史を埋蔵文化財調査から究明できる資料が豊富に残存している可能性が高いものと考えられ、以後の調査で大きな成果があがることを期待している。

報告書抄録

ふりがな	くまとりちよういせきぐんはくつちようさがいようほうこくしょ							
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書							
巻次	ⅩⅢ							
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第32集							
編著者名	鹿川 淳							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590 0495 大阪府泉南郡熊取町野田1丁目1番1号							
発行年月日	西暦 1999年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
東円寺跡 97-18区	大阪府泉南郡 熊取町大字 紺屋1567-2	27361	6	34° 23' 57"	135° 21' 07"	19980325	4	個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
久保城跡 98-1区	大阪府泉南郡 熊取町大字 久保1567-2	27361	15	34° 23' 32"	135° 22' 18"	19980521 、 19980522	4	個人専用 住宅建設
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
城ノ下遺跡 98-1区	大阪府泉南郡 熊取町小谷 204-1	27361	6	34° 23' 26"	135° 22' 33"	19981102 、 19981104	6	個人専用 住宅建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項			
東円寺跡 97-18区	寺院跡	——	検出なし	検出なし	——			
久保城跡 98-2区	城郭跡	——	検出なし	検出なし	——			
城ノ下遺跡 98-1区	城郭跡	鎌倉	検出なし	土師器破片など	——			

熊取町埋蔵文化財調査報告 第32集
熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XIII

発行 平成11年3月

発行・編集 熊取町教育委員会

大阪府泉南郡熊取町野田1丁目1番1号

印刷 小笠原印刷株式会社

大阪府泉佐野市上瓦屋646番地